

## 今日の説教のポイント<使徒言行録1章1～11節>

### ①イエス様の昇天？ そんなことが信じられるか？

聖書を読んで知らされることは何でしょう？ この世界を造られた神様がおられ、その神様は今も私たちを愛して下さっているお方であるということです。イエス様の「昇天」もこのことの中で考えることが大切です。でないと、「突然、天に昇って行かれたなんて、信じられるか」とだけ思って終わりかねません。青虫が蝶々になるのを初めて見たら驚いて奇跡と思うでしょう。しかし、いったんその変化の「理屈と意味」を理解したなら、誰もこれを奇跡だとは思いません。ましてや、神様が私たちのために起こして下さった特別な出来事、イエス様の誕生・十字架の死・復活、そして昇天は、神様がそこに込めて下さった内容（理屈と意味）にまず耳を傾けて聞かなければならないものなのです。

### ②「昇天」は、去られていなくなられたと思うべきものではない。

復活されたイエス様は、40日間弟子たちに現れられた後で天に昇られました。この40日間は、「イエス様は確かに生きておられる、しかも私たちの思いを越えた新しい在り方で生きておられる」、ということを弟子たちに確信させられるための40日間でした。ですから、イエス様の昇天は、弟子たちにとっては、「もはや主はおられない」と思うようになるのとは違う思いで迎える昇天だったでしょう。「この後、何をすればいいのか」、そういう課題が残された昇天だったのです(8, 11)。

### ③生きて働き給う神様。その神様を覚えて生きることが力の原動力！

イエス様は弟子たちに「神の国」について話された(3)とあります。「国」と訳されたギリシア語の元の意味は「支配」です。つまり「神様の支配」について話されたのです。イエス様は、「神の国(支配)はあなたがたの間にあるのだ」とも教えられました(ルカ福音書7:21)。「いかなる時にも神様は私たちに働き給う。その神様の支配を覚えて生きるように」と教えられたのです。弟子たちはこの神様の支配を覚えて生きるようになり、どんなに大きな苦しみや悲しみに襲われた時にも絶望することなく、むしろ、神様から託された生きる使命・目的を新たに知らされて、そのために喜んで生きるようになったのです。私たちも！